



鶴見区民会議は、誰でも自由に参加できる話し合いの場です。話し合いから、うるおいがあり、心安らぎ、また活力のある地域社会づくりのアイデアが生まれます。

編集発行 鶴見まちづくり推進会議
承認鶴見区第 14 号

こどもたちのために ～歴史と文化を踏まえ、 みんなでつくろうやさしいまち～

平成19年7月4日(水)鶴見公会堂において区民大会・区民会議を開催しました。今年度の区民会議テーマ「こどもたちのために ～歴史と文化を踏まえ、みんなでつくろうやさしいまち～」に沿ったお話を、横浜市立大学名誉教授 加藤 祐三氏にいただきました。

～加藤祐三氏の講演から～

近代日本の中心となった横浜

1853年のペリー艦隊の来航時、海軍を持たない幕府は、彼らの軍事力を冷静に判断し、外交重視の体制を整えました。日米交渉は戸数約90の半農半漁の横浜村、関内の大栈橋付近で行われました。林大学頭率いる幕府の「避戦論」重視の姿勢により「日米和親条約」が締結され、近代日本の幕開けに成功しました。こうして横浜は交渉条約という良質な遺伝子を持って歩み始めたのです。横浜では、1859年7月1日(安政6年6月2日)の開港以来、祝賀行事が行われています。戦争を避けて条約が結ばれた事の重要性。双方十分に意見を述べ合って合意点に達した事の重要性。その魅力が全国から進取の気性に富む人々を集め、外国からも「ヤングジャパン」の応援に多数の有為な人材が来浜したのです。



まもなく開国・開港から150年を迎えますが、横浜は国内の他都市と比べても極めて若い。平安京が80歳だとすると、鎌倉幕府は53歳、横浜は10歳です。これからの成長への期待をいろんな形で残していければいいなと思います。また、横浜は一国内に留まらない「国際的な共生共存の代表的都市」でもあります。そして、我が横浜が「近代日本の中心となる役割を果たした」という事も、こどもたちに残したい論点の一つです。

鶴見の先輩から良いものを学ぶ

鶴見村の名主だった関口さんが「関口日記」を残しています。これを読めば、150年ほど前の話に行けます。代々に亘り全て活字で26冊残しております。区の図書館に蔵書されておりますが、現代人でも読むことができます。150年前の鶴見の先輩が、当時の条約から開港の頃の都市形成の初期をどう見ていたか、資料として勉強されるのも一つの手かと思います。

★加藤 祐三(かとう ゆうぞう)氏

横浜市立大学助教授、教授、学長を経て、横浜市立大学名誉教授。著書に「幕末外交と開国」(ちくま新書)、「黒船前後の世界」(岩波書店)ほか多数。

★区民大会 功労賞表彰

今年度もさまざまな分野で顕著な功績のあった方々が表彰されました。



《鶴見まちづくり功労賞受賞者》

(本年度は鶴見区制 80 周年にあたり特別枠を設けました)

黒川 茂夫 環境保全	栄町3・4丁目町内会 花と緑・美化清掃
小林 敏男 美化清掃	石田 静子 花と緑・美化清掃
池田 光男・弘子 美化清掃	山田 数衛 美化清掃
大澤 浩一 環境保全	原 省三 美化清掃
石井 元吉 地域文化振興	松澤 福司・ハツエ 地域文化振興
すげーぜつるみ2006実行委員会 地域振興・イメージアップ	
田中 裕子 地域活動	鶴見大学児童文化部みつる会 資源化推進
鶴見区文化協会 地域文化振興	鶴見野球協会 スポーツ振興

(順不同・敬称略)

★区民大会・区民会議で行なった会場アンケートの結果

現在の地域活動への参加状況について、一番多かったのは、「自治会・町内会」活動、2番目に多かったのは「祭りや運動会」、「子ども会・老人クラブ」でした。

参加してみたい地域活動についても、「自治会・町内会」活動が最も多く、今後は若い世帯にも地域活動に参加していただきたいとの声が多く寄せられました。

平成19年度第2回鶴見区民会議

12月2日(日)午後1時30分～ 鶴見大学会館(豊岡町3-18)

こどもたちのために ～歴史と文化を踏まえ、 みんなでつくろうやさしいまち～

分科会

- ① こどもたちへ贈ろう 青い空と緑のまち
- ② こどもの育成・教育環境を考える
～むかし、今、そしてこれから～
- ③ つくろう 安全・安心のまち
 - ・ 昭和から平成へ(防犯、防災、平和)
 - ・ 異文化(多文化)交流の発展

一時保育、手話通訳 あり
申込みは11月16日(金)
まで

誰でも自由に参加できます。ファクスや電子メールでもご意見を募集しています。

◆ご意見送付先◆

鶴見区役所区政推進課広報相談係 〒230-0051 鶴見区鶴見中央3-20-1

電話: 510-1680 FAX: 510-1891

電子メール: tr-kuminkaigi@city.yokohama.jp